I-24

ゲストハウスの共用空間における利用実態に関する研究

A Study on the Utilization of the Guesthouse in Common space

○尾崎 未知[1]，山中新太郎[2]
*Misato Ozaki[1], Shintaro Yamanaka[2]

The purpose of this study is to clarify the actual use of shared space of guesthouse from interview survey and an observation survey. Through the analyses, the following became clear. 1）A lodging fee of guesthouse is from 2,500yen to 4,000yen. 2）They established 40 percent of guesthouse attached a restaurant. 3）All of guesthouse have a community space.

１．研究背景と目的

近年，国内の観光地や都市部において，ゲストハウスやバックパッカーズ等と称する素泊まりを基本とした比較的低廉な簡易宿泊施設（以下これらをまとめて宿泊型ゲストハウス[注1)]としゲストハウスと略記する）の開業が相次ぎ，宿泊の有無を問わず多様な人々の交流が注目されている．また，訪日外国人旅行者の増加に伴い，彼らに馴染み深いゲストハウスの需要は高まると考えられる． ゲストハウスでは宿泊者同士が交流する機能があることがホテルや旅館との最大の相違点であり，最大の魅力である．ドミトリーやキッチン，リビングの共用によって他者との会話が生まれ，宿泊者同士をつなぎ合わせる機能を果たしている．そこで，ゲストハウスの共用空間の宿泊者の「居方」[注2)]に着目し，オーナーやスタッフの計画に対して実際どのように共用しているのかを明らかにすることを目的とする．

２．ゲストハウスの現状

２－１．ゲストハウスの定義

本稿ではゲストハウスの定義を①素泊まりを基本としている，②ドミトリーと呼ばれる相部屋がある，③トイレや洗面，シャワー等が共用で，台所や居間などなにかしらの共用空間がある，の３つとした．なお，宿によってさまざまなタイプが存在したため抽出にあたって以下の点に留意した．(a) 素泊まりを基本としつつ，朝食のみ選択可能な「B&B」方式は含めた．(b) ドミトリー形式以外に個室を選択できるものは含めた．(c)「ホステル」「ユースホステル」「バックパッカーズ」「宿」などの名称であっても，上記に当てはまるものは含めた．(d)「ゲストハウス」という名称であっても上記に当てはまらないものは除いた．

２－２．全国のゲストハウス

「ふらっと」[3)]と「FootPrints」[4)]と『全国のゲストハウスガイド』[5)]を用いて全国のゲストハウスの分布を示す Table 1 を作成した．表で示すとおり，全国のゲストハウスの数は 800 件であり，都道府県別にみると東京，京都，大阪などの観光地として人気のある都道府県に多くあることが分かる．また，東京都に注目すると，74 軒のゲストハウスのうち 34 軒が台東区にあり約半数を占めている．

Table 1 都道府県別ゲストハウスの数

北海道計	77	東京都	74	奈良県	24	高知県	11
青森県	3	関東　計	119	和歌山県	12	愛媛県	11
秋田県	3	新潟県	11	兵庫県	18	四国　計	64
岩手県	3	富山県	6	京都府	89	福岡県	25
宮城県	7	石川県	21	大阪府	71	佐賀県	4
山形県	4	福井県	3	近畿　計	225	長崎県	12
福島県	3	長野県	25	鳥取県	10	大分県	7
東北　計	23	岐阜県	13	岡山県	13	熊本県	11
群馬県	2	山梨県	11	島根県	11	宮崎県	8
栃木県	9	静岡県	13	広島県	24	鹿児島県	14
茨城県	2	愛知県	12	山口県	6	九州　計	81
神奈川県	20	中部　計	115	中部　計	64	沖縄　計	45
埼玉県	2	滋賀県	4	香川県	23	全国　計	800
千葉県	10	三重県	7	徳島県	6		

２－３．台東区のゲストハウス

台東区のゲストハウスの実態を把握するため，各 HP と予約サイトの「トリップアドバイザイー」や「booking.com」を用いて比較し，特徴がみられた（い）宿泊料金と食事提供の有無，(ろ) 併設施設の有無，(は) 個室の有無，（に）交流スペースの有無，（ほ）ランドリーの有無の調査結果を以下に示す．

（い）宿泊料金と食事提供の有無

一泊当たりの宿泊料金を「2500 円以上 3000 円未満」と設定するゲストハウスが 16 軒と多かった．次に「3000 円以上 3500 円未満」「3,500 円以上 4000 円未満」と設定するゲストハウスが 6 軒と続いた．食事提供の有無に関しては「朝食（無料）」が 1 件，「朝食（有料）」が 9 軒，「なし」が 24 軒であった．以上の結果から，宿泊料金の相場は 2500 円～4000 円であること，約 7 割のゲストハウスでは食事提供が行われていないことが分かった．食事提供に関しては，（ろ）併設施設の有無に関係し，特に飲食店舗の併設が大きく関係していると考えられる．

１：日大理工・学部・建築　２：日大理工・教員・建築

（ろ）併設施設の有無

併設施設とは宿泊の機能以外の機能を持ち，宿泊者以外の人もできる施設のことである．「飲食店」が 13 軒，「アトリエ／ギャラリー」が 1 軒，「なし」が 20 軒であった．以上の結果から，約 4 割のゲストハウスで飲食店が併設されていることが分かった．これは台東区という観光地であることが影響していること，また，宿泊者同士だけでなく，宿泊者と非宿泊者との交流を生み出す場所となっていると考えられる．

（は）個室の有無

「あり」が 28 軒，「なし」が 6 軒であった．このことから約 8 割は個室があることが分かった．個室があると家族や友達，恋人と一緒に利用しても楽しむことができるため，宿泊者の幅が広がると考えられる．

（に）交流スペースの有無

交流スペースは宿泊者がオーナーやスタッフ，ほかの宿泊者と交流できるスペースのことで，寝室以外の部屋を指す．「あり」が 34 軒とすべてのゲストハウスは交流スペースを設けていた．交流スペースとしては居間やリビングが交流スペースとされている．

（ほ）ランドリーの有無

予約サイトの基本情報に記載があり需要が高いとみられた．「あり」が 24 軒，「なし」が 10 軒であった。数か月かけて日本を旅する訪日外国人旅行者のような長期で旅をする人がゲストハウスを利用することが多いことを表していると考えられる．

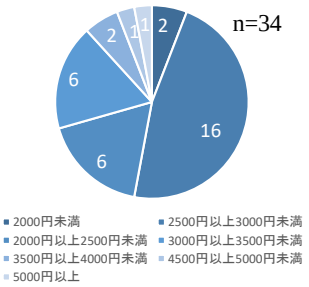

Figure 1 宿泊料金

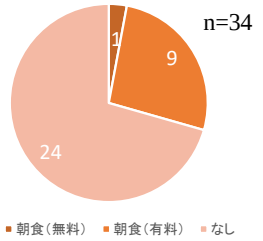

Figure 2 食事提供の有無

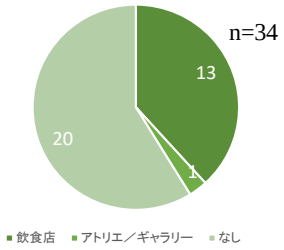

Figure 3 併設施設の有無

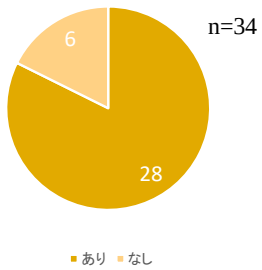

Figure 4 個室の有無

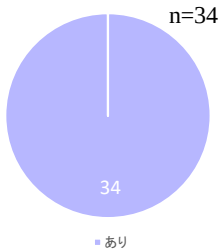

Figure 5 交流スペースの有無

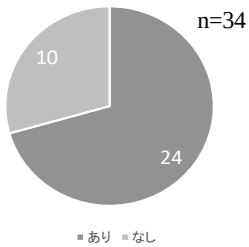

Figure 6 ランドリーの有無

３．まとめと展望

台東区は東京で最も古い市街地のひとつであり，浅草地区などは特に人気の観光地であるため，様々な人が集まることを予測し対応できるような設備やサービスが備わっていることが分かった．また多くのゲストハウスが交流スペースや飲食店など宿泊者と誰かが交流できるように計画されていることが分かった．今後，共用空間のみに注目し，どのように計画されどのように利用されているのかを明らかにしていきたい．

注釈

注１）ゲストハウスと称される施設はシェアハウスや宿泊施設，結婚式場，大学の寄宿舎，企業の研修施設等がある[1]．このなかで，本稿が取り扱うのは宿泊施設であり，誤解を避けるために「宿泊型ゲストハウス」という表記を用いる．

注２）「居方」はもともと鈴木が提唱した概念であり，「ある場所に人が居る時の状況や，その時周囲の環境とどのような関係を取っているか，またそれが他者にどのように認知さえるかといったことの総称」とされる[2]．

参考文献

１）石川美澄：『ゲストハウス』と称される施設・場の変容に関する調査報告-新聞記事の分析を通して-，観光学術学会第 1 回大会発表要旨集創刊号，pp.66-67，2012.7.7.

２）鈴木毅：人の「居方」から見る環境,現代思想, Vol122-12，pp.188-197，1994

３）ふらっと（最終観覧日 2018.5）http://guesthouse-hostel.com/

４）FootPrints（最終観覧日 2018.5）http://www.footprints-note.com/about

５）稲葉美映子，久保麻紀，戸田恭子，根岸真理，林加奈子：全国のゲストハウスガイド，株式会社実業之日本社，2017.7.25